

宮崎アカデミーロータリークラブ 会報

第 123 回例会 2023 年 11 月 28 日

●例会場 宮崎大学地域デザイン棟

会長 明石 良 副会長 水光正仁 幹事 梶田竜司

■会長の時間

明石 良 会長



さて、11月16日から始まり、先週で終了したゴルフの2大イベントが終了しました。最終的にはリコーカップの入場者数は、4日間で延べ約11,000人でした。

ちなみに、ダンロップフェニックストーナメントでは約18,000人で、2週間で約29,000人の集客でした。実は、今年のダンロップにはタイガーウッズが来る予定でしたが、膝の不調で断念された様です。タイガーは、参加する否かのギリギリまで考えた様です。

では、私が何をしたかと言いますと、リコーカップでは競技委員がカップの位置を決める際に、その回りのシバの生育状況やスピード等を鑑みて情報を提供しております。そのカップの位置によって、1位のスコアを予想し、最終的に私の目標である優勝スコアを10アンダーとしておりましたところ、してやったりでした。楽しい2週間でした。

ロータリーの友の記事が出来上がり、昨日に編集室へ提出しました。ご協力頂きました会員の皆様方には、改めてお礼を申し上げます。

ついに希望している提携クラブからの返事がありました。それは、タイのバンコクロータリークラブで、相手側の担当者も決まりましたので、情報交換を行いながら、進めて行きたいと思えます。ちなみに、日本では京都ロータリークラブと姉妹クラブらしいです。日本では、友好クラブがないそうです。今後は、姉妹クラブとするのか、友好クラブとするのかを検討します。

もう12月となります。12月は忘年会やゴルフ大会があります。また、12月の最終例会には年次総会もあります。年末まで、慌ただしい日々になりますが、くれぐれもお身体には気をつけて下さい。

■幹事報告

梶田竜司 幹事



・10月15日の地区大会と、28日に開催されました九州4地区合同公共イメージ向上事業活動にてポリオ募金に協力頂きました。11月13日に合計360,708円を公益財団法人ロータリー日本財団に送金致しました。

・次回12月5日の例会は夜間例会となっております。会員の皆様には出欠の連絡を事務局へお願い致します。

・今年最後の例会は12月19日12時から地域デザイン棟に変更となっております。年次総会となっておりますので宜しくお願い致します。

今年明石会長が提案された貯金箱基金の回収も行いますのでお持ちください。

■各会員からの報告

○クラブ管理・増強委員会

石川千佳子 会員

出席報告について



会員数 41 名、
本日欠席者数 21 名
本日出席者数 20 名
出席率 48.78%

○公共・奉仕プロジェクト委員会

勢井由美子 委員長



①12月4日(月)16:00～ ニシタチ子ども食堂開催(クリスマススペシャル)

②12月12日(火) 夜間例会(親睦会)にて、アフガニスタン人道支援としてのフードドライブ開催します。

特に、Rahimaさんは3月出産予定。ベビー関係の物資も歓迎。

③アフガニスタンコロキウムの情報発信(SNS、ネット)により、水光先生のご親戚からお便りと募金が届く。

後日改めて鮫島学長へお届けする予定。

○クラブ管理・増強委員会報告

安田文彦 委員長



次回例会は夜間例会となっております。ご参加をお願いいたします。

出欠のご回答はメールの返信のほか、本日例会場でも承っております。よろしくお願いいたします。

■ハッピー報告

梶田竜司 会員



今月18日に宮崎県庁で令和5年度宮崎県地域経済振興100年企業顕彰授賞式に出席し、受賞を受けました。私は今4代目で梶田種苗を経営しています。

1923年から100年もたねやを継続できたのは、お客様、皆様のおかげだと感謝しております。これからも末永く宜しくお願い致します。

■会員卓話

石川千佳子 会員



中世・近世美術史の空白地帯にやってくる驚きのオンリーワンの文化財に出会う

初めての講話で何をお話したらよいか迷ったのですが、夜間例会の折に宮崎の文化財を話題にしたところ、興味を持っていただけましたので、当地に参って、文化財調査に当たることに

なった経緯と、個性的なオンリーワンの文化財を話題にしてみました。

今を去ること37年余り、まだ宮崎大学教育学部が木花キャンパスに移転前の1986年に着任した当初、衝撃的な言葉を美術科の先生方から頂戴しました。

日本美術史に関連した担当科目で、学生さんを地域の古美術見学に連れ出そうと思い立ち、適切な見学先をご紹介いただこうと思ったところ、「大光寺ぐらいかなあ…とにかく宮崎には無いよ」というご返事だったのです。お隣の鹿児島大学の、日本美術史を専門とする先生からも「南九州は中世・近世美術史の空白地帯といわれてきたのですよ」と教えられました。

当時は宮崎県立美術館もありませんし、宮崎県総合博物館でも美術展はたまにしか開かれていませんでした。

もやもやした思いを抱えたまま、故上野登先生(人文地理学)が主宰する「照葉樹林文化を考える会」に首を突っ込み、おかげで学内外の数多くの方々との交流が始まるなかで、文化財に対する素朴な疑問はいつしか片隅に追いやられていきました。

それが一転するきっかけとなったのは、生目神社の神王面との出会いです。宮崎県文化財保護審議会に美術部門が設けられて、2002年から委員を務めることになり、生目神社の調査には翌2003年に同行しています。

このときは、宮崎ご出身の美術講座の先生方に相当脅されました。神官以外に見ることが許されなかった面だということをご存知で、調査などしようものなら「祟りがある」というのです。真顔で仰いますから、さすがに少々恐ろしくもあったのですが、好奇心が勝って参加しました。

確かに、鎌倉時代の年紀がある神王面は、岡本太郎ではありませんが「なんだこれは？」という不思議な迫力に満ち満ちたものです。いっぺんで魅せられました。現在、この神王面は国の重要文化財になっています。

その後も、向山神社の鉄製狛犬や、国富法華岳の龍の天井画、黒貫寺の聖観音菩薩像等々、挙げればきりがありませんが、オンリーワンで他に類似したものが見当たらない文化財に突き

当たっては、面白くも悩み多い調査を重ねています。

最近の難題は、室町時代の年紀がある門川町正蓮寺の『木造日蓮聖人坐像』で、これは正面から見れば鎌倉～室町の肖像彫刻の様式ですが、実は平安前期の技法で造られています。まるで古い仏像を新しく別な像に作り替えたかのようにもみえます。仏像研究の専門家の意見では、畿内や関東の調査もまとめられていないので、この像の謎を解くにはあと100年ぐらいかかるだろうということでした。

今回の拙い話の後に「神王面の調査後に祟りはなかったのか」というご質問をいただきました。そのときは無かったようだとお答えしましたが、考えてみたら、学術的には100年後にしか謎が解けないような本県文化財の魔力に魅入られたことこそが、祟りであったのかもしれない。



謎が100年後に解けるかもしれない正蓮寺『木造日蓮聖人坐像』



2003年 生目神社『神王面』調査時

宮崎アカデミーロータリークラブ
事務局 〒880-0806
宮市広島1丁目3-3 秀豊ビル4F
TEL 0985-22-6767 FAX 0985-22-